

# 4年制大学における教養日本語科目について\*

一大邱所在のK大学の「生活日本語会話」を事例に一

趙 恩 英\*\*

(e-mail : choeun215@gmail.com)

## <目次>

- |         |                |
|---------|----------------|
| 1. はじめに | 4. 分析結果        |
| 2. 先行研究 | 4.1. 教科書分析     |
| 3. 研究方法 | 4.2. 会話練習      |
|         | 4.3. 日本文化      |
|         | 4.4. レベル別クラス分け |
|         | 5. まとめ         |

キーワード: 日本語教育(Japanese-language Education)、教養日本語(Japanese Liberal Education)、教材分析(The analysis of Japanese teaching materials)、日本文化(Japanese culture)、レベル別クラス分け(level-based class)

## 1. はじめに

本論文は大邱広域市所在のK大学の教養大学<sup>1)</sup>で行われている日本語教育(「生活日本語会話」)についての現状を明らかにし、教養日本語教育のための改善点を提示することと、教養日本語教育に携わり始めている新人教師に教養日本語授業法のヒントを与えることを目的とするものである。

박(2010)は、韓国で資格のない専門職の一つが教授職であり、フランスでは教授になるためには高校の教師と同様に資格が必要で、「アグレガシオン」という「1級教員資

\* 이 논문은 2018년도 부산외국어대학교 학술연구조성비에 의해 연구되었음

\*\*釜山外国語大学校、助教授、日本語教育

1) 「教養大学」とは日本では「教養学部」に当たる。韓国には「教養学部」と「教養大学」があるため、該当大学の組織に合わせ、本稿では「教養大学」とする。

格」を取らなければならないことを指摘している。フランスでは、研究員や教授になるためには専門知識のみではなく、教授能力まで持たなければならないと考えていることを指摘し、フランスの制度は教授の教育力を引き上げるためには有益であることを述べている。박(2010)の教授の持つべき資格や教授法についての指摘は、様々な点で考えさせられる内容である。

博士号を取ったばかりの教師や、研究職に就いてはじめて教えることになった新人教師は、教え方や教える範囲などいろいろな疑問が生じるであろう。特に、大学で日本語を教えることになった新人教師の場合、専攻の授業より、教養の授業を担当することが多いものの、授業の運営の面で多様な問題に直面する。教養の授業は、さまざまな専攻から来た学習者がほとんどで、レベルをはじめ、関心分野や授業で求めている希望などにばらつきがあるため、教える側の教師は戸惑いを感じるのである。そのため新人教師は長年の経験により身についた独自の教授法を持っているベテランの教師からは想像しがたい悩みを持っていると考えられる。

教材はどのようなものを使うべきなのかから始まり、少人数ではないクラスにおいて会話練習はどのような方法がよいのか、日本の文化は何をどこまで紹介すべきなのか、ゼロレベルや基礎過程を終えたレベルの学習者は授業に対し、どのような意識を持っているのだろうかなど、さまざまな疑問が浮かび上がってくる。

先行研究を分析してみると、教科書の選択、会話練習、文化の紹介、学習者の意識などについて、それぞれの分野が単独に考察されているため、これらの項目が全体の授業の流れのなかで、どう行われているのかなどは掴みにくくなっていると考えられる。

そこで、本研究では、はじめて大学で教養日本語の授業を担当することになった教師のために、教養日本語の授業について四つの項目に焦点を当てて、検討し、講義計画書を作成する際や実際に授業を運営する際、参考できるものを提示することを目指し、探索的に述べていく。

研究項目は、(1)K大学の教養大学の「生活日本語会話」の教材の特徴、(2)会話練習法、(3)授業で紹介する日本文化の種類や範囲<sup>2)</sup>、(4)レベル別クラス分けの必要性についてである。研究方法は、それぞれの項目について、(1)教材分析、(2)授業で実際に行った会話練習の方式、(3)学習者の発表のテーマ、(4)最終授業日に実施した意識

2) 日本文化における「文化」の定義について、本稿では、아야메·구와야마(2012)の「人間のさまざまな行動や思考のうち、他の生物と共有している本能的な習性や行動を除いた部分全体を指す。芸術や思想などの「高級文化」に限定しない人間生活様式の全体のことである」に従う。

調査を用いて分析する。また、本研究の結果は、他の大学の教養日本語教育と比較・分析するための基礎資料にも使えると思われる。

## 2. 先行研究

筆者は教養日本語教育の「生活日本語会話」の授業を運営しながら、以下のような疑問が生じた。

- (1) K大学で行われている「生活日本語会話」の授業で採択されている教材はどのような特徴があるのか。
- (2) 大規模の学生による会話練習法にはどのような方法が考えられるのか。
- (3) 日本の文化は何を伝えるべきなのか。
- (4) レベルに合ったクラス分けは必要であるのか。また、クラス分けに対する学生の意識はどうなっているのか。

방(2016)は、教養教育の問題点について、非専任教員が多くの授業を担当している点、大規模の講座が多い点、非専任教員の動機付与が低い点、創意性増進の教養教科目が多くない点、教養学部大学が設置されていない国立大学の場合、大学内部で教養教育の地位が低い点、教養教育に参与する専任教員の教育質管理プログラムに参加する数が少ない点、教授法・学習法・教養教材などに改善点が多い点、教養教育の問題点と教養日本語教育の問題点に類似点が多い点などを指摘している。

筆者が持つ問題意識は、방(2016)が指摘した問題点のうち、教授法と教養教材に関するものであるため教養教育を論じるにおいて、ごく一部分にすぎないと思われる。しかし、先行研究を通じ、それが必要な部分であることが分かる。

まず、これまで教材分析をテーマにしたものには叫他(2008)、日本語教育の質管理や改善点を述べている叫(2016)、教養日本語で採択されている教材の特徴を明らかにしている千(2008)などがある。これらはそれぞれの大学の特定の教材に限定されているため、K大学の教養日本語教育を論ずるにはK大学で採択されている教材を分析する必要がある。

次に、大規模の受講者により、教師-学習者間ではなく、学習者-学習者間の会話練習が主に実施される際、どのような方法で授業が行われているかについては、教授法に関

する研究が多い。フリップラーニング(罽 2017, 古 2017)やMoodle(丞 2017)などを活用した授業に関する研究、eラーニングコンテンツにおける口頭練習の可能性について述べている八野・国井(2015)などがある。しかし、これらの方法論は、初めて教壇に立つ教師が導入するにはハードルの高い方法のように思われる。

また、日本文化について、李(2016)は、大学の教養科目における日本文化関連の授業で行われている日本文化教育の実態を把握するために日本文化の教材を分析している。김(2005)と盧(2014)は、日本文化についてアンケート調査を行い、学習者の意識調査を分析している。特に、盧(2014)は、教養日本語の受講者の関心分野について、①日本旅行、②日本料理、③日本のアニメーション、④日本映画・ドラマ、⑤日本小説などの文学などを上位5位として挙げている。

しかし、意識調査と実態調査には差が出るため、学習者が実際に興味を持っている文化項目について調べ、それを明らかにする必要があると思われる。

さらに、大学の教養日本語のレベルに合うクラス分け授業に関する研究には、召(2011,2013)、河野(2014)などの研究があるが、それらはレベルに合うクラス分けの授業を行った後の学習者の意識を調査したものである。そのため、レベルに合うクラス分けの授業を行っていない学習者の意識はどうなっているのかが疑問である。

そこで、上記の4つの疑問点を解消するために、第一に、K大学の「生活日本語会話」に使われている3冊の教材を比較し、授業に適切な教材について考察する。第二に、授業で行われた会話練習を紹介し、具体的な授業案を提示する。第三に、学習者が発表した自由主題を通じ、学習者が興味を持つ文化関連のテーマについて述べる。最後に、授業に参加した学習者が答えた意識調査を分析し、レベルに合うクラス分けの必要性について述べる。

本研究の結果は「生活日本語会話」の授業を運営しようとする教師や教養大学で日本語教育を実施する際の参考資料になるだろう<sup>3)</sup>。

3) 방(2016)は、教養教育に注目する理由について、専攻教育で扱われていない部分を教養教育が担当しなければならないためであり、外国語教育はグローバル時代に要求される意思疎通の能力と多文化理解に役に立するためであると述べている。また、世界各国の言語と文化の多様性を考慮した教育が非常に重要であるため、教養教育の質を改善し、学習者重心の創意的・能動的な日本語教育へ転換すべきだと指摘している。筆者もこれらの意見に同意し、教養教育で行われている日本語教育についての体系的・専門的な研究・考察が必要であると考えられる。

### 3. 研究方法

「生活日本語会話」の授業についての質問用紙の作成は、2017年後期の「生活日本語会話」の授業に参加した学習者38名の結果を分析した。また、自由主題の発表を通じた興味のある文化分野に関する考察は、2016年後期の「生活日本語会話」の授業と2017年後期の「生活日本語会話」の授業で発表されたテーマを分析した。

〈表1〉は2017年後期の「生活日本語会話」の授業に参加した学習者の日本語学習歴をまとめたものである。

〈表1〉日本語学習歴について

	既習者	未習者	合計
日本語学習の有無	31名(77.4%)	7名(22.6%)	38名(100.0%) <sup>4)</sup>

「生活日本語会話」の授業に参加した学習者の約80%が日本語を習った経験がある。これは「基礎日本語1」を受講した学習者の約70%が学習経験を持っている<sup>4)</sup>(2017)の調査結果よりやや高い結果である。このことから教養日本語を受講する学習者の学習歴は科目による差はあまりなく、同様の傾向が見られることが分かる。このような結果は、講義計画書ではゼロレベルを対象にしたため、ゼロレベルの学習者が成績をもらう際、不利に作用する可能性が生じる一方、既習者の場合、授業全般に渡り、既に学習した内容であるため、授業に興味を失い、授業の内容に集中しにくくなり、授業の姿勢が悪くなりやすいと思われる<sup>5)</sup>。

本研究の分析項目と方法は以下の通りである。

(1) 「生活日本語会話」は3人の教師が担当し、それぞれ異なる教材を用いて授業を行ったが、これらの教材がどう異なるのかについてK大学の2017年2学期に採択された3冊を対象にする。

- ・ 최성옥, 이현진, 최윤정(2017) 『뉴스타일일본어1』 동양북스(以下『スタイル』と称する)
- ・ 감영희 외(2015) 『뉴스타일관광일본어1』 동양북스(以下『観光』と称する)

4) 合計38名は一クラスの人数である。

5) 来日の経験のある学習者は14名(1回は6名、2回は5名、3回は1名、4回は1名、11回は1名)で、来日経験がない学習者は24名である。来日経験者は3割程度であり、全体の3分の2が日本の文化についての知識は間接経験であることが分かる。

- 최충희, 마치다 고유키, 박민영(2006) 『뉴다락원일본어 스텝1』(以下『타ラク웁』と称する)
- (2) 会話練習はどのような方法がよいのかについては、授業運営の過程を述べてから、授業中に配布した活用表を提示し、考察する。
- (3) 多様な情報がインターネット上で手軽に得られる、情報過剰の時代において、どのような日本文化を紹介・伝達すればよいのかについては、学習者自身が自ら選んだ発表の主題を通して考察する。
- (4) レベルに合うクラス分けの授業は必要なのか、また、クラス分けが最善であるのかについては、最終授業日で書いてもらった質問紙の結果を分析する。

## 4. 分析結果

分析項目に入る前に、授業全般についての学習者の意見を聞いた。まず、授業の難易度については<表2>のようにまとめられる。

<表2>授業の難易度

	非常に易しい	易しい	普通	難しい	非常に難しい
授業の難易度	0名	10名	13名	15名	0名

授業の難易度について、「難しい」と答えた学習者が15名でもっとも多かった。その次が「普通」で13名であった。「非常に難しい」と「非常に易しい」と答えた学習者が出なかったことはよかったものの、授業の難易度の調整に問題があったと判断できる。次に、授業の内容において、難しかったと思った項目について聞いた。「漢字」「文法」「作文」「会話演習」「課題」「小テスト」の項目に分けて聞いた結果が<表3>である。

<表3>難しかった内容<sup>6)</sup>

漢字	文法	作文	会話練習	課題	小テスト
14名	7名	6名	4名	0名	7名

6) 「作文」は、各課ごとに文型や文法を習ってから、それを利用した短文を書くことである。「課題」は、1学期4回程度、形容詞と動詞の活用形について課題を出した。授業中の説明だけで、十分

学習者がもっとも難しいと思う項目は、「漢字」であり、「文法」と「小テスト」がその後を次いだが数値的に大きな差とは言えない。日本語学習において、漢字教育についての新たな方法論が必要だと思われる7)。

#### 4.1. 教科書分析

この節では教材分析を行う。まず、<表4>は、各教科書の学習目標を各課別にまとめたものである8)。

<表4> 学習目標

	『スタイル』	『観光』	『タラクウォン』
1	文字と発音1 ひらかな、清音、濁音、半濁音	文字と発音1 ひらかな、カタカナ、漢字、符合など	文字と発音1 五十音図、清音
2	文字と発音2 拗音、促音、撥音、長音、カタカナ	文字と発音2 清音、濁音、半濁音、拗音、促音、撥音、送り仮名、外来語表記	文字と発音2 濁音、半濁音、拗音、発音、促音、長音
3	挨拶 自己紹介	自己紹介、挨拶、人称代名詞	文字と発音3 カタカナ、漢字
4	名詞文の疑問文と否定文、電話番号を話す	指示語を使用し事物の位置関係を表現	挨拶、人称代名詞、自己紹介
5	注文する、物および人の数を数える	時間表現を使用し観光日程を紹介	指示代名詞
6	ショッピングして計算、数字、指事語	数字と助数詞を使ってホテルチェックイン業務	数字読み、時間表現1
7	存在表現、存在の場所を聞いて答える	日付表現と関連の主題を使用し客と会話ができる	年、月、日、曜日を読む、時間表現2
8	時間、日付、曜日、名詞文の過去活用	指示語を拡張し、存在表現と位置表現などを使い客に客室内の備品の有無と位置を案内できる	数字読み、価格を言う、貨幣種類
9	イ形容詞の活用	イ形容詞を使い韓国の食べ物を簡単に紹介できる	イ形容詞の活用
10	ナ形容詞の活用	ナ形容詞を使い客のショッピングを手伝う	ナ形容詞の活用
11	動詞の種類と「ます形」活用	イ形容詞とナ形容詞の過去形を利用し観覧物についての感想を問ったり答えたりできる	存在表現(事物)位置表現
12	動詞の過去形の活用、相手の意思を聞いて勧誘する表現	動詞を分類し「ます形」を使い観光地を案内できる	存在表現(人、動物)、家族呼称、助数詞
13			動詞、ます形、否定形
14			動詞の過去形/過去否定形/勧誘表現、形容詞の副詞形
15			目的、希望
16			動詞のテ形、てください
17			ている(進行、状態、完了)
18			てもいいです(許可)、テ形など

『スタイル』と『タラクウォン』は「構造シラバス」であり、『観光』は「場面シラバス」で

できる内容である。また、各課が終わったら、漢字の小テストを行った。

- 7) 漢字教育のための方法論については今後の課題にする。
- 8) 教材の構成は、『スタイル』は「新しい単語と表現」「文法ノート」「文型練習」「本文会話」「練習問題」「単語テスト」「もう一歩」で構成され、『観光』は「学習目標」「学習内容」「単語」「会話」「文法」「基本練習」「会話練習」「現場で使われる表現」「ボーナス」「復習」で構成されている。『タラクウォン』は「学習ポイント」「単語」「会話」「文法」「練習問題」「ポイント会話」で構成されている。

ある。各課は、『スタイル』と『観光』は12課で構成されており、『タラクウォン』は18課で構成されている。大学の1学期の授業15週の授業において、中間テストと期末テスト、復習などを考えてみると『タラクウォン』の課は多く感じられる。『スタイル』と『観光』は、動詞の「ます形」まで学習でき、『タラクウォン』は、「テ形」まで学習できる。初級で習得すべき文法項目を「テ形」までだとすると、『タラクウォン』のほうが適切な範囲だと思われる<sup>9)</sup>。

それぞれの教材の相違について、語彙の出現傾向という語彙面に焦点を当て考察してみる。『スタイル』は「新しい単語および表現」、『観光』は「単語」「word」、『タラクウォン』は「単語」「漢字の読み」「新しく出た単語」という項目に出現した語彙を対象にした<sup>10)</sup>。各教材にある「文字と発音」に出る語彙や「文法」「文型」項目に出る語彙は除外した。〈表5〉は、語彙の出現をまとめたものである。

〈表5〉語彙の出現

	『スタイル』	『観光』	『タラクウォン』
異なり語数	263語	391語	370語
延べ語数	514語	666語	424語

語彙の出現傾向を調査する前は、18課で構成されている『タラクウォン』に新しい単語がより多く現れると推定されたが、実際に現れる語彙は異なり語数も延べ語数も『観光』に多く現れている。なぜ『観光』に語彙の出現が多かったのかは、場面シラバスのため、場面ごとに関連の語彙(場所関連)が新たに出現しているからだと思われる。次に、語彙を品詞別に分けて検討すると〈表6〉のようになる<sup>11)</sup>。

9) 『タラクウォン』を採択した場合、1課から3課までを2回の授業で進行し、6課と7課に分かれている時間表現1と時間表現2を統合して進めるのであれば、「テ形」まで指導することができると判断される。また、高校で学べる日本語の範囲が「ます形」や「て形」であることから、既学習者の多い教養日本語教育では「て形」までを目標にしてもいいのではないかと思われる。また、調査大学の教養日本語の授業ではひらがなから教え、一学期の進捗の場合、『スタイル』『観光』教材を使ったクラスは一冊全部終え、『タラクウォン』教材を使ったクラスは13課まで進んだ。

10) 語彙を調査する際、「文字と語彙」に出る語彙を除外した理由は、発音の練習をするためのものなので、学習者がその語彙を覚えたりしないためである。また「文法」「文型」項目に出る語彙を除いたのは、教材によって「文法」「文型」に初出語が多すぎたためである。教師によっては、「文法」や「文型」の説明をする際、教科書に出る例文や説明ではなく、簡単な表現を使い、説明する場合があるためである。

11) 〈表6〉の品詞別の出現傾向において、連体詞、接続詞、感嘆詞については入れていない。そのため、〈表5〉の数と一致しない。

＜表6＞品詞別の出現傾向

		『スタイル』	『観光』	『タクウォン』
名詞	異なり語数	182語	268語	219語
	延べ語数	351語	442語	245語
形容詞	異なり語数	33語	47語	32語
	延べ語数	65語	109語	44語
動詞	異なり語数	19語	4語	45語
	延べ語数	38語	4語	62語
副詞	異なり語数	9語	14語	21語
	延べ語数	18語	20語	22語

各教材に使われている語彙の品詞別の出現から、興味深い傾向が見られる。『スタイル』と『観光』は動詞の「ます形」まで学習しても、『観光』のほうは動詞の数が4語しか現れていないことである。1学期間日本語を習ったのに、動詞が延べ語数で4語しかないのは少なすぎである。

以上のように、教材別に語彙面から差があることが明らかになった。従って学習目標に合う教材の選定が必要であると思われる。例えば、『観光』のように動詞の延べ語数が少ない教材は、4年生大学の教養大学よりは、2年生大学の観光学部や文化センターなどの入門過程に相応しいのではないかと思われる。

## 4.2. 会話練習

講座名に「会話」という表現が使われているため、4技能のうち、話す力と聞く力の向上に学期の後半は力を入れたかった。学習者も「初級日本語」というゼロレベルからの授業が開設されているのに、「生活日本語会話」の授業を取るのは会話練習をしたいと感じているからだと思われる。それでは、「会話」という表現がない講座を受講する学習者はどう思っているのだろうか。Y(2017:94)は、「基礎日本語」の受講生を対象に意識調査を行っているが、学習者は話す・聞く中心の会話授業を希望していることを指摘している。このことから、講座名と関係なく、学習者は会話授業を望んでいることが分かる。しかし、教える側と教わる側の希望が一致しているものの、40人近くの人数を対象に、教師を中心にした会話練習、教師主導の会話練習は限界がある。

実際行われた会話練習について述べると、学期の前半では、教材の本文会話を中心にした会話練習を行った。本文会話のCDを聞かせ、1行ずつ読ませ訳をさせたり、意味を教えたりした。その後、ペアを組み、5分の時間を与え練習させたが、ゼロレベルの学習者

가ペアになっているペアを除き、大半の学生は2、3回程度読んでから練習を中止する傾向が見られた。練習を早く終えた学習者は一人で漢字を覚えていたりしていたが<sup>12)</sup>、本文自体に関心を示していなかった。そのため、本文を練習させた後、本文をそのまま読ませず、自分の状況に合わせ本文の表現を修正し、発表する方法に変えた。しかし、この方法もほとんどの学習者が本文の会話の枠に縛られ、内容や表現の変化はあまり見られず、会話練習に積極的な態度も見られなかった。

생활일본어회화 2017년 월 일			
이름: _____			
(학우소개)			
이름	학년	취미	졸업 후 계획
<p>학생은 누구입니까? 1학년: 1年生, 2학년: 2年生, 3학년: 3年生, 4학년: 4年生</p> <p>취미는 무엇입니까? 게임: 게임, 음악감상: 음악鑑賞, 영화감상: 映画鑑賞 인터넷쇼핑: 인터넷쇼핑, 독서: 読書, 여행: 旅行, 운동: 運動 술마시기(존슬로임): 酒を飲むこと, 노래부르기: 歌を歌うこと 연애: 恋愛</p> <p>졸업 후의 계획은 무엇입니까? 공무원: 公務員, 회사원: 会社員, 결혼: 結婚, 유학: 留学, 대학원진학: 大学院進学 자유인: 自由人, 종교활동: 宗教活動, 사회운동: 社会運動</p> <p>홍길동さんは 大学3年生です。홍길동さんの趣味は ゲームです(ゲームをすることです)。 홍길동さんの卒業後の計画は 公務員(になること)です。</p>			
< 図1 >			
생활일본어회화		2017년 11월 6일	
		이름: _____	
1. 오늘/내일 날씨를 물어보세요.			
2. 오늘/내일 요일을 물어보세요.			
3. 생일을 물어보세요.			
4. 오늘/수요일 일본어수업시간을 물어보세요.			
5. 스마트 폰 한달요금(이따가쯔의 리ょうきん: 1ヶ月の料金を) 물어보세요.			
6. 오늘/어제 날씨(てんき: 天気)를 물어보세요.			
7. 명용시를 이용해 질문에 보세요.			
8. ~と~と どちらのほうが ~です. 를 이용해 질문에 보세요.			
< 図2 >			

最終的に、会話練習に積極性と興味を引き出すための工夫として、以下の<図1>と<図2>の活動紙を配布し、活動させた。周りの3~4人の学習者に質問をし、表や文を

12) 会話練習のパートナーを決めるに当たり、ランダムにより男女の区別をせずペアを組み、練習させた結果、積極性はおろか活動自体に拒否を示した。学習者皆にランダムによるペアを決める方法について聞いてみたところ、「知らない人とペアになりたくない」「異性とペアになりたくない」という答えが返ってきた。そのため、ペア活動は横に座っている友だちや周りにいつも座っている学習者と活動させた。

完成し発表する形式を採択した。この方法に変更してから、学習者の会話練習に対する、積極的な態度が見られるようになった。既存の会話練習の多くは、教師側からの質問に学習者が答える方法や学習者同士が与えられた質問項目を利用した練習、活動紙の質問に答える方法が多かった。また、与えられた質問項目や質問に答える方法の場合、日本語で提示されているものが多かった。しかし、活動紙を用いた練習は、〈図2〉のように全て韓国語で質問文を提示し、質問表現を学習者自ら作成するようにさせた。学習者は活動の最初の段階では、韓国語を日本語に変えることに難しさを吐露したものの、徐々に興味を示しながら活動をするようになった。

〈図1〉の「学友の紹介」、〈図2〉の「時間表現」の活動表の他に「位置・存在表現」「曜日・天気に関する質問」「一日の日課」「自由質問」のテーマで総6回実施した<sup>13)</sup>。

この方法は、これまで行われてきた、教師が学習者に同じ質問をし、短答で答えるという既存の方法よりは効果が出たと思われる。学習者は自ら質問の表現を選択し、周りの学習者に質問する。得られた答えをまとめて発表する形式を通して、学習者それぞれ異なる形式で質問をすることや、まとめの形式など多様であることが学べる機会になったと思われる。また、ある意図を持って表現するということで、多様なことばで発することが自然に身についたと思われる。

さらに、限られた時間内に短い本文を用いた会話練習を行うよりは、各課の目標を達成するための活動に時間を配分するほうが有意義であることが確認できた。

### 4.3. 日本文化

語学の授業において、その言語が使われている国の文化を知ることは欠かせない重要な事項であろうが、授業を運営する際、文法事項の説明、本文会話などを利用した会話練習、練習問題を通して目標達成を確認することだけでも、授業の時間は足りない。そのため、日本の文化について時間を割くことは難しいと思う教師もいるだろう。また、授業中、日本の文化について少しでも触れたいと思っても、何をどこまで紹介すべきか悩む。特に、インターネットにより、いろいろな情報が手早く得られる現代社会においてどのような文化を紹介し、教えるのかについては検討の必要があると思われる。

13)各学生がきちんと日本語で質問と受け答えが出来るように活動の前に強調して説明した。「今の時間は韓国語は禁止です。日本語で話すように心掛けてください。韓国語で話す行為は相手に迷惑となります」など学生に何度も注意させた。また、教室をずっと回りながら学生の活動を確認した。

망(2016)は、大学2校の教養日本語講座を受講している242名にアンケート調査を実施し、教材の補完点として「日本文化の紹介」を挙げている(42.4%)<sup>14)</sup>。また、「日本に関する関心分野」については、旅行(24.7%)、アニメーション・漫画(20.5%)、食べ物(20.2%)、映画・ドラマ(10.3%)などであることを明らかにしている。これらの結果はその範囲が非常に幅広く、例えば、旅行だとすると具体的な場所が気になる。アニメーション・漫画だとするとどんな作品について興味があるのかに疑問が生じる。

千(2018)は、日本文化についての日本語学習者の関心領域を考察し、伝統文化、生活文化、大衆文化に分け、生活文化には飲食、言語、旅行の順に、大衆文化に音楽、芸能、映画、CMの順に興味があることを述べているが、より具体的な関心分野は見えにくい。具体的な文化項目が明らかになるのなら、文化を取り扱う時間により学習者の興味を引く授業にすることができると思われる。

今回、学習者が興味を持っている文化項目を明らかにするために、学習者が授業中に発表した内容を検討した。〈表7〉は学習者が発表した自由主題のテーマである。

〈表7〉 発表のテーマ

2016年後期	2017年後期
1. スイカ	
2. 日本アニメーション制作社	
3. 好きなもの(寿司、芸能人、映画)	
4. 靖国神社	16. 久石譲
5. ドラマ「孤独のグルメ」	17. ドラマ「孤独のグルメ」
6. 憲法(韓国法と日本法の比較)	18. 日本人を泣かせた映画ベスト5
7. ユニバーサルスタジオ	19. グルメドラマ「深夜食堂」
8. ゆるキャラ <sup>15)</sup>	20. アニメーション「ドラえもん」
9. 長野苗場スキー場	21. 大阪の3代温泉
10. (ふなっしー) ゆるキャラ	22. 嵐
11. 好きな日本ドラマ(ベスト3)	23. アニメーション「クレヨンしんちゃん」
12. 流行の化粧法	24. 天神祭り
13. 食べたいラーメンランキング5	25. 桜と関連するもの
14. スポーツ関連のアニメーション	
15. ドラマ「世にも奇妙な物語」	

14) 「日本文化の紹介」の次は、「日本文化、小説の紹介」が15.6%、「日本人、日本事項についての紹介」(14.2%)を挙げている(망 2016:56)。

15) 「ゆるいマスコットキャラクター」の略語: イベント、各種キャンペーン、地域おこし、名産品の紹介などのような地域全般の情報PR、企業・団体のコーポレートアイデンティティなどに使用するマスコットキャラ

学習者の発表のテーマの範囲が非常に細かいことが見て分かるだろう。飲食やアニメーション、ドラマの場合でも、食べ物の全般やアニメーション・ドラマの全般ではなく、特定のものに限る。

例えば、ラーメンの場合、醤油ラーメンや味噌ラーメンなどではなく、特定の店を紹介する(13)発表があったり、ある分野のアニメーション(14)や、特定のアニメーションシリーズ(20,23)だったりする。ドラマ(5,17,19)の場合、食べ物と関連するドラマに関心が高いことが分かる。また、アニメーション自体だけではなく、アニメーションを制作する会社というアニメーション関連のものまで興味があることが今回の調査で分かった。同様に、映画音楽を作曲する久石譲の発表から、映画の一部分を成している音楽にも興味があることが確認できた。旅行に関する発表においても、有名な観光地の羅列や紹介より、一つの場所について具体的で詳細に紹介する傾向(9,24)があった。また、観光地の紹介において、有名な温泉を数多く紹介することより、ある地域(21)に限定し、紹介する方式を選択している。

これらの他に、韓国と日本の憲法を比較した発表や、日本の靖国神社の問題に関する発表、ゆるキャラという地域マスコット、流行のメイクなど、教養日本語教育の現場で文化項目として普段あまり取り上げられていないテーマが挙げられた。また、ゆるキャラの発表から、最近話題となっているものについても関心があることが分かった<sup>16)</sup>。では、教養日本語教育で使われる教材にはどのような文化項目が掲載されているのか。そこで、参考として4.1で取り扱った教科書に掲載されている文化項目を見てみる(〈表8〉)。

『スタイル』では「한걸음 더」というページに言葉と関連するものが紹介されており、『観光』では「ボーナス」というページに日本についての紹介がある。『タラクウォン』では「日本語広場」で言葉と関連するものが若干紹介されている。『スタイル』と『観光』では、12課のうち、文字と発音の部分(1課・2課)以外の課ごとに文化項目が出ているが、『タラクウォン』は文字と発音の1課～3課を除いた15課のうち、文化項目は4つしか出ていない。

今回、検討対象の教材に載せられている文化項目は非常に少なく、高校の日本語教科書より少なく、一般的な説明にすぎないことが分かった。また、教材ごとにその項目はばら

クターのことである

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%86%E3%82%8B%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%A9> 検索日:2018.5.19.)

16)参考として釜山外国語大学のJ-BIT海外文化体験プログラムに参加する学生が申請した文化体験の主題を見てみると、「九州地域の伝統芸能と日本文化」「東京日本の伝統工芸を通じ体験する匠人精神」「京都神社」「東京、千葉、埼玉の夏の祭りおよび踊り探訪」などである。伝統工芸、芸能に興味を持っていることも分かる。

つきがあり、言葉に関する内容が多いことも確認でき、学習者の興味のあるテーマとはずれていることが見て分かる。

＜表8＞教材の文化項目

	『スタイル』	『観光』	『タラクウォン』	『Mirae』 <sup>17)</sup>
1				I 日本について、日本の行政区域
2				日本の高校生の学校生活
3	多様な人称代名詞	名刺交換、呼称		日本の住居文化
4	さん・君・ちゃん	国家概要		日本の飲食文化、食事礼儀
5	どうぞ	日本地図		日本の年中行事
6	円	日本の貨幣		日本の交通文化
7	すみません	日本の公休日		日本の遊び文化
8	日本の公休日	結婚式		日本の伝統衣装、祭り
9	よかった	食事礼儀	慣用句	日本のお正月
10	元気	日本人に好まれる韓国のお土産		II 1 日本家庭に訪問の際の礼儀
11	私の一日	歌舞伎		2 日本のインターネットと携帯電話
12	失礼します	日本人に好まれるソウル観光地	楽しい数字読み	3 日本の駅
13				4 日本のスポーツ
14				5 地域ごとの有名な食べ物
15			韓国と日本の漢字語	6 日本の代表的な観光名所
16				7 日本の病院診療の順序と薬屋
17				8 日本の漫画とアニメーション
18			しりとり	9 日本の災害対応訓練とエネルギー節約
				10 日本の伝統芸能

李(2016)は、日本文化の教材10種を分析し、教材の多様性や個性も重要であるが、客観的で幅広い文化知識を取り扱うべきであると述べている。文化関連の授業で扱われている文化項目を参考にし、語学教材に掲載する文化項目の数を増やしたり、客観的に取り扱う必要がある。

このように、教材における文化の項目の少なさ、内容の浅さなどは、言語教育において、文化はあまり重要な項目として扱われていないことと、日本語教育業界の関係者の認識の少なさが反映されている結果ではないかと思われる。日本語教育に携わっている関係者の認識の再考や学習者が興味のある文化についての更なる検討が必要であると考えられる。

以上から、今回の調査を通して、文化に対する学習者の関心分野は非常に細分化されており、範囲が非常に広いことが確認できた。文化のテーマを選ぶ際や文化の紹介の時は、ある分野について一般的な内容を羅列して紹介するよりは、特定の分野に絞って紹

17) 高校で使われている検認定の日本語教科書の一つである。

介するほうが学習者の興味を引き出しやすいのではないかと思われる。また、最近流行りの言葉やものについて紹介するのもいいと思われる<sup>18)</sup>。

実際の授業では、客観的で幅広い文化知識について書かれている資料を配り、その中から学習者の希望に応じ、いくつかを選び詳しく説明する。また、資料にない文化項目を学習者に書いてもらい、その中からいくつかを選別し、詳細に説明する指導法もある。

#### 4.4. レベル別クラス分け

河野(2016)は、2013年から教養日本語科目について3段階の水準に分け、講座を開講し、レベルに合うクラス分け授業を行い、その結果を述べている。オンラインとオフラインを通じ、学習者にその主旨を知らせ、オリエンテーションの週にそれぞれの能力に合うクラスに移動をさせたが、学習者は自分の能力よりレベルの低いクラスを選択したり、自分の能力より高いクラスを選択したりする傾向が見られたことを指摘している。レベルに合うクラス分けをしたものの、クラスの中にはより多くのレベルの差が起きてしまったことを述べている。クラスの中に差が起きたことについて、意図的に自分の能力より低いクラスを選択した原因は、高い成績をもらうためであり、また、容易く単位をもらうためであるということ指摘し、このような学習者の場合、授業に関する満足度は高かったが、実力の向上はあまり望まず、意欲も低いことを指摘している。一方、自分の実力より高いクラスを選択した理由について、受講の申請がうまくできなかったということがもっとも多く、授業について不満が残り、学習意欲が生じない可能性を述べている。

先行研究の結果から、筆者は調査の前の予想ではレベルの高い学習者の場合、「生活日本語会話」という講座名に合うように、生活会話の練習ができると思い、同じレベルの学習者同士で授業をしたいと希望し、レベルに合うクラス分けを望むだろうと考えた。また、その反面、レベルの低い学習者の場合、生活会話が自由に話せる水準まで向上できないと予想され、クラス分けの必要はないと答えるだろうと予想した。

しかし、調査の結果は予想とは反対であった。レベルの高い学生の場合、クラス分けの必要はないと言い、レベルの低い学生はクラス分けの必要性があると答えたのである。クラス分けに対する考えについて、その理由を聞いたら、〈表9〉のような答えが返ってきた。

18) 「最近流行りの言葉やもの」については、〈表7〉のゆるキャラやドラマ「孤独のグルメ」のようなもの、また、2016年度・2017年度の新語・流行語の「聖地巡礼」「インスタ映え」「フェイクニュース」などのことがある。

＜表9＞クラス分けの必要性

有り	無し
1. <u>日本語ができる学生が多くて追いつくのが難しい部分がある。</u> 2. 初めて日本語に接する学生が多いのに、 <u>進み方が速く、理解できずに飛ばす部分が多い。</u> 3. <u>ゼロレベルの学生には進み方がやや速く、難しい感じがした。</u> 4. <u>よくできる人とできない人との差など、いろいろな短所があった。</u> 5. <u>人のレベルの差が酷かった。</u> 6. <u>実力の差が激しく、できる学生の言うことが理解できなかった。</u> 7. <u>授業内で実力の差が感じられた、</u> 8. <u>できる人が非常に多い。</u> 9. <u>レベルの差がある。</u> 10. <u>学生ごとの理解度が異なるため、クラス分けは必要である。</u> 11. <u>個人の實力に合う授業を受けるのがいいと思う。</u> 12. <u>初級授業なのに、勉強してきた人との水準の差が多かった。</u>	13. <u>高いレベルの人と低いレベルがよく混じり合った授業であった。</u> 14. <u>ひらがなとカタカナが分かれば、ある程度付いていける授業であった。</u> 15. <u>非専攻科目である授業をレベル別クラス分けにする場合、学生の接近が難しくなると思う。ただ、学生の希望により、高級クラスは開設してもいい。</u> 16. <u>生活日本語という科目の特徴上、深化過程ではないため、レベル分けは必要ではない。</u> 17. <u>基礎からの授業であるが、すでにある程度の実力を持っている人にも十分役に立つ。</u> 18. <u>学生間のレベルの差により、授業を受けることに不便な点はない。</u> 19. <u>易しい基礎なので誰でも簡単にできる。</u>

＜表9＞から、クラス分けが必要ではないと思う学習者は、授業の難易度を「簡単だ」と答えた学習者であり、クラス分けが必要であると答えた学習者は「難しい」と答えた学習者であった。特に下線部のように、クラス分けに対する認識の差が非常に大きいことが見て分かる。学習者の自由記述から、レベルの高い学習者はレベルの低い学習者がどのような思いを持っているのかが想像できていないことが分かる。

この結果から、クラス分けを望んでいる学習者はレベルの低い人、ゼロレベルからの学習者であることが確認できた。日本語に興味を持ち、学び始めた学習者が楽しく、気軽に日本語を勉強するためには、レベルに合うクラス分けの必要があると判断できる。

また、学習者のレベルに差がある授業を進めていくとき、クラス全体の雰囲気非常に暗いことに気づく。レベルの低い学習者はレベルの高い学習者が話す日本語の表現に落ち込み、一方、レベルの高い学習者はすでに学習した内容なので興味が沸かない。それぞれのレベルを持つ学習者は自分なりの理由で積極的に授業に臨まない。

クラス分けを実施するためには、学校側のクラス分けのためのシステムの完備などが必要であるが、そう簡単に構築されるものではない。そのためには、学校のシステムが整えられるまで何をすべきなのか。教師側は話し合いなどを通じ、それぞれの授業に差を置き、授業を行ったほうが良いと思われる。

例えば、ゼロレベルからのクラス、ひらがなを覚えている学習者向けのクラス、動詞のます形が分かっている学習者向けのクラスなど、最低3クラスに分けて授業を進行するのである。授業で学習者がレベルの差を感じる瞬間は、教師の質問に答える時、会話の練習の際、短い文を作って発表する際、まだ習っていない語彙や表現を使用し、話す学習者を見るときである。教師は、ゼロレベルの授業において、まだ習っていない語彙や表現を使わないように、オリエンテーション週に説明し、他のクラスに移動を促すほうが良いと思う。

このように、同じレベルで異なる教科書を使い、授業の運営も教師の裁量に任されている現状が多い、教養日本語教育では善良の学習者が日本語学習に挫折感を感じないように工夫すべきであると思われる。金・工藤(2017)は、教養日本語を履修する学習者の履修理由について検討をし、「具体的に「日本語で本を読みたい」や「映画を見たい」という履修理由ではなく、インターネットで得られる豊富な情報から日本語や日本文化に興味関心を持ち始めた学習者であることと日本語の過去の学習経験により日本語の学びやすさや日本語の楽しさを期待し履修していること」を指摘している。前者の興味関心を持ち始めた学習者は後者の過去の学習経験者により、挫折感を持たないようにすべきだと思われる。

## 5. まとめ

本研究では、K大学の教養大学で行われている日本語教育について、その現状を明らかにし、教養日本語教育のための改善点を提示するために、教科書分析、会話練習の方法、学習者の自由主題の発表、学習者のレベルに合うのクラス分けに対する意識について検討した。本調査で明らかになったことは以下の通りである。

(1)K大学の教養日本語授業「生活日本語会話」の教材は構成の面や学習目標、語彙面において差がある。担当教師間の協議を通じ、学習目的や学習者のレベルに合う適切な教材を選択する必要がある。

(2)会話練習の方法について、教材の本文会話を中心にした授業よりは学習者の活動を念頭に置いた「課題解決方式」の会話練習が有効である。活動表は韓国語で提示す

るが、質問と答えは日本語にするように指導し、課題解決の後、結果も各個人で日本語発表する方法がいい。

(3)学習者が興味を持っている文化項目について、概要的な説明にとどまらず、特定項目について詳細に扱うほうがいい。学習者の関心分野を事前に確認し、特定項目や流行り事などを紹介する。

(4)レベルの高い学習者はレベルに合うクラス分けを望まず、レベルの低い学習者はクラス分けを望んでいる。授業の雰囲気向上や、ゼロレベルの学習者に挫折感を与えないためには、レベルに合うクラス分けが必要である。クラス分けのために必要な構造的なインフラを整えるまでは教師間の事前協議を通し、レベルに合うクラス分け授業を行う。

本研究は、K大学の教養日本語授業の「生活日本語会話」の授業を対象にした。今後、「初級日本語1」「初級日本語2」について、教授法に対する考察と学習者の授業に対する意識を調査し、教養授業の日本語教育の質の向上について検討していきたい。また、4年制大学の日本語の授業のみではなく、2年制大学における日本語の授業についても併行していきたい。

#### 付記

本論文は2018年4月21日(土)に行われた韓国日本研究総聯合会(한밭대학교)において口頭発表したものを加筆、修正したものである。口頭発表の際、貴重なアドバイスを下さった先生方々と論文査読の方々にお礼を申し上げる。1)\*\*

### 【参考文献】

- 고혜정(2017) 「플립 러닝의 도입이 학습 효과에 미치는 영향 — 대학 교양일본어의 전통적인 수업과의 비교를 통해서 —」 『日本語教育』 제81집, 한국일본어교육학회, pp.1-15
- 김중희(2011) 「대학교 교양일본어의 수준별 수업에 관한 연구:학습자 인식조사를 중심으로」 『한국일본어문학회 학술발표대회논문집』, 한국일본어문학회, pp.352-356
- \_\_\_\_\_ (2013) 「수준별 교양일본어 수업의 만족도에 관한 연구」 『일어일문학』 제57집, 대한일어일문학회, pp.163-178
- 김활란(2005) 「일본어 수업에 있어서의 문화교육의 필요성-대학의 교양일본어 수업의 실태조사를 중심으로-」 『日語日文学研究』 Vol.54 No.2, 韓国日語日文学会, pp.199-219.
- 박남기(2010) 『최고의 교수법』 생각의 나무, pp.7-8
- 박재환·이은주·현성령(2008) 「대학교양일본어 수업의 개선방향에 관한 연구」 『일본근대학연구』 제20집, 한국일본근대학회, pp.35-57
- 房極哲(2015) 「대학에서 교양 일본어(제2외국어)교육 개선을 위한 실천적 제안」 『일본어교육』 제74집, 한국일본어교육학회, pp.15-26

- 방극철(2016) 「한국 대학 교양 일본어 교육의 질 관리 방안 연구」 『일본어문학』 제71집, 한국일본어문화학회, pp.49-69
- 송현아·최은희(2017) 「교양일본어과목에서 학습자중심의 수업 활동 방안연구-일본언어와 문화과목 적용 활동을 중심으로-」 『한국일본어학회 학술대회 2017년 제36회 국제학술발표대회 요지문』, 한국일본어학회, pp.114-119
- 염미란(2017) 「플립드 러닝(Flipped Learning)을 활용한 교양 일본어의 신수업 제안」 『日本文化學報』 제73집, 한국일본어문화학회, pp.111-124
- 이선희(2017) 「대학 교양 일본어학습에 관한 기초조사-서울소재S대학의 교양 일본어학습자를 중심으로-」 『일본근대학연구』 제58집, 한국일본근대학회, pp.83-96
- 이자호(2016) 「K대학의 일본어교육 현황과 개선안」 『日本文化論叢』 제15집, 대한일본문화학회, pp.85-104
- 조선영(2017) 「교양일본어수업에서 Moodle의 활용 -학습자의 개인차를 반영하여-」 『일본어교육연구』 제38집, 한국일본어교육학회, pp.167-183
- 千吳載(2008) 「학습자의 의식에 의거한 대학 초급일본어 교재 분석」 『日語教育』 제45집, 韓國日本語教育学会, pp.51-68
- \_\_\_\_\_ (2018) 「한국인 대학생 일본어 학습자의 일본문화 관심 영역 고찰」 『韓國日本研究總聯合會 第7回國際學術大會予稿集』, 韓國日本研究總聯合會, pp.132-136
- 야야베 쓰네오·구와야마 다카미(저), 황달기(역)(2012) 『알기 쉬운 문화인류학』 계명대학교 출판사
- 李南淑(2016) 「大学の教養科目における日本文化関連授業の教材分析」 『比較日本学』 第37輯、漢陽大学校日本学国際比較研究所, pp.319-332
- 河野奈津子(2014) 「教養日本語科目でのレベル別授業-クラスのレベルと能力に差がある学者の観点から」 『韓日語文論集』 第18輯、韓日日語日文学会, pp.125-142
- 金玄珠·工藤恵利子(2017) 「『教養日本語』の履修理由についての一考察-韓国の4年制大学の非専攻学習者を中心に-」 『日本語教育研究』 第40輯、日本語教育学会, pp.27-43
- 盧姓鉉(2014) 「受講動機が授業満足度に及ぼす影響-大学の『教養日本語』の受講生を対象にした調査結果に基づいて-」 『日本語学研究』 第39輯、韓國日本語学会, pp.71-82
- 八野友香·国井裕(2015) 「eラーニングコンテンツにおける口頭練習の可能性-「初級日本語会話Ⅱ」コンテンツの授業実践を中心に-」 『日語日文学研究』 第94輯、韓國日語日文学会, pp.453-474

ゆるキャラ 「ウィキペディア」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%86%E3%82%8B%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%A9> (検索日:2018.05.19.)

논문 투고 일자 : 2018. 05. 31.
논문 심사 일자 : 2018. 07. 31.
게재 확정 일자 : 2018. 08. 03.

---

 < 要旨 >
 

---

 4年制大学における教養日本語科目について  
 一大邱市所在のK大学の「生活日本語会話」を事例に一

趙恩英

本稿では、K大学教養大学で行われている日本語教育(「生活日本語会話」)についての現状を明らかにし、教養日本語教育のために改善点を提示することを目的としたものである。本研究の結果以下のことが明らかになった。

- (1) K大学教養日本語授業「生活日本語会話」教材は構成の面や学習目標、語彙面において差がある。担当教師間の協議を通じ、学習目的や学習者のレベルに合う適切な教材を選択する必要がある。
- (2) 会話練習の方法について、教材の本文会話を中心にした授業よりは学習者の活動を念頭に置いた「課題解決方式」の会話練習が有効である。活動表は韓国語で提示するが、質問と答えは日本語で言うように指導し、課題解決の後、結果も一人ずつ日本語で発表する方法がよい。
- (3) 学習者が興味を持っている文化項目について、概要的な説明にとどまらず、特定項目について詳細に扱うほうがよい。学習者の関心分野を事前に確認し、特定項目や流行り事などを紹介する。
- (4) レベルの高い学習者はレベルに合うクラス分けを望まず、レベルの低い学習者はクラス分けを望んでいる。授業の雰囲気づくりや、ゼロレベルの学習者に挫折感を与えないためには、レベルに合うクラス分けが必要である。クラス分けに必要な構造的なインフラを整えるまでは教師間の事前協議を通し、レベルに合ったクラス編成を行った上で、授業をする。

 Japanese Language Course as an Elective Unit in University  
 - Case Study of K University in Daegu Metropolitan City -

Cho, Eun-Young

The purpose of this study was to look into the current status of a Japanese language course at K University in Daegu and to provide suggestions for improvement. I examined the classes of the 'Daily Japanese Communication' (DCU) unit and its teaching methods, textbooks, students' presentations, and class division per level. The results are as follows.

- (1) The three textbooks used in the DCU at K University showed some differences in terms of structure, goal, and vocabulary. An appropriate textbook for each class should be selected in accordance with the level of students and goals based on discussions among instructors.
- (2) The problem-solving-oriented practice was more effective than practice based on textbook content. The problem-solving activities were provided in Korean, but students were instructed to attempt the questions and answers in Japanese with results to be presented in front of the class.
- (3) For cultural items in which students showed more interest, in-depth introductions were far more effective than quick overviews. It is recommended that teachers introduce what is interesting to the students by having a preparatory research session.
- (4) Beginner-level students showed more interest in dividing the class by level than advanced-level ones. It is recommended that classes be divided according to students' proficiency level based on discussions among instructors before structuring the course so as not to overwhelm beginners.